

自己評価（前年度）

※「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価」のチェック項目を用いて自己評価しています

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価			
データ分析表	データ表		
	内容	項目数	平均
	「乳児保育」	15	4.53
	「3歳未満児保育」	32	4.56
	「3歳以上児保育」	53	4.32
	「教育保育の配慮事項」	16	4.50
	「健康・安全」	29	4.69
	「子育ての支援」	18	4.56
	「職員の資質向上」	9	4.78
	計	172	4.51
データグラフ			
総合評価	子どもの人権についての園内研修では職員が自身の保育での行動を振り返る機会になったと共に、気づきを掲示して保護者の目に触れるようにしたことで、全ての関係者が子どもの人権について考える機会となった。また、この一年は地域との交流を意識し、近隣施設との交流や地域の子育てサークルにも参画することで、少しずつ顔と顔の見える関係づくりが構築してきたように感じる。今年度は保護者も巻き込んで人権や安全について考える機会を設けたり、子どもたちも地域の一員として意識して活動できるよう取り組みを深めたりしていく。		

事業計画（今年度の重点目標）

項 目	内 容
こども・子ども・高齢者・障害者との「信頼」の構築	〔取り組みの発信〕信頼を築くことを目的に、日頃からの高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信信頼を築くことを目的に、日頃からの高齢者・障害者・保護者へ安全性を高めるための取り組み等の発信 保護者へ避難訓練への参加の呼びかけをしたり、職員の人権擁護の研修結果を保護者に発信したりする（年2回）
保護者との「信頼」の構築	〔環境問題への配慮〕地域の環境問題に対する取り組みの実践 園の周辺清掃や公園のゴミ拾いを子どもたちと共に実施する（年6回）
地域の学校との「信頼」の構築	〔学校との相互理解〕 学校行事への参加や、園（施設）行事・自己評価事業への招待等、“顔と顔の見える関係（世間話ができる関係）づくり”に努め、相互理解を図る 施設評価事業へ小学校教員を招待したり、小学校の授業を見学したり、子どもたちが交流できる機会を小学校教員と共に検討したりして連携を深めていく（年3回）